

梅窓院通信

No.135
2025/03/01

青山



冬の寒さがゆっくりと和らぎ、今年も新芽が顔を出します。春の訪れです。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

青空がどこまでも広がる快晴のもと、元旦からのお正月行事が滞りなく厳修されました。今年もご家族揃ってお参りされた方が多く、昨年より賑やかな三が日となり、大変ありがたく思っております。



さて、次なる行事は春彼岸会になります。春と秋、昼と夜の時間が同じになる中日の前後三日間ずつ、合わせて七日間が彼岸となります。本紙三ページ目に詳細を記していますので、ご覧ください。彼岸には恒例行事として、梅窓院の開基、青山家の出身地、岐阜県郡上八幡の物産展を開催しています。郡上八木やケチャップなど美味しい品々が多数並んでいます。どうぞ、法要やお墓参りの前後にお立ち寄りください。

さて、仏教講座の開催時間を夜から昼に変えて一年余り、参加される方が増えていることがわかりました。コロナ禍で生活スタイルを見直したことで、時間が自由になる高齢者の増加などが理由に挙げられそうですが、勉強したい、という日本人の勤勉さがベースにあるように思えます。また、法話や説教より身近に感じるのも一因かもしれません。皆様のご参加をお待ちしています。

少し早いお知らせになりますが、十一月三十日(日)の文化講演会に、浄土宗僧侶で、世界で活躍するメイクアップアーティストの西村宏堂師をお呼びします。

西村師をご存じの方も多いかと思いますが、LGBTQ人権活動家でもあり、ハイヒールを履いたお坊さんとして、多くのメディアに登場、出版、講演でも大活躍されています。例年通り事前申し込み制にする予定ですが、詳細は改めてお知らせいたします。

まもなく新年度を迎えます。新しいステージを迎える方も多いかと思えます。どうぞ、健康にはくれぐれも留意され、楽しく健やかな日々をお過ごしください。

春のどか

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

歳

時記(春)の部の時候欄に長閑という季語があり、のどかさ・のどけさ・のどけし・のどやか・のどろかななどの類語が列記されている。長閑・閑かとは、のんびりとしたおだやかなさま、ゆつくりとした落ち着いたさまのことであるが、転じて、天気の良い、よく晴れたおだやかなさまをいうのである。俳諧・俳句の世界では、これを春の季節に特定して季題とするのである。

漢語には駘蕩(たいたう)という言葉がのどやかなのんびりしたさまを表し、春風駘蕩と言われるように、これも春ののんびりとしたおだやかなさを佳称している。もつとも漢字の駘の字は馬(ウマ)の形声文字で、怠す(な)わちなまけることと同系の言葉で、のろい、にぶい、おろかしい、おつとりとしたというような意味である。また蕩はゆらゆら動く、ゆれ動いてくずれるなどの意味であるから、駘蕩という熟語には、のどかでゆつたりとした広くて大きいさまのほか、だらだらとしてまよまよりのないというあまり芳しくない意味もあることも気をつけなければならない。

た生活や態度を促し、まさしく心身の安定安息には欠かせないものである。

のどかさや寝てしまひけり草の上 (東洋城)

長閑なるものに又なき命かな (万太郎)

長閑さや雲の上なる雲動き (一貫)

のどけしやこにかうして在るだけで (晴子)

さびしさや撞けばのどかな鐘の音 (渚男)

宮内省勤務の長かった松根東洋城は、「渋柿のごときものにて候へど」の代表句から主宰誌名を「渋柿」と名づけた人。松山中学時代に夏目漱石に学んで師事し、師の名作『草枕』をも理想させるのが、この句である。

その東洋城に師事したのが、高名な小説家、劇作家の久保田万太郎。万太郎のゆとりをもった慈眼は、生きとし生けるもののいのちの尊さを「長閑なるもの」として捉えたのである。「又なき」とは、二つとない、これ以上のものはない、かけがえのないという意味である。

川瀬一貫は、子規時代以来の大阪俳壇の雄であった青木月斗門で、その主宰誌「同人」を引き継いだ人。はるかなる大空の雲の動きに心を遣って、のどけしきありように的確につかんだのである。

そうした意味で、高浜虚子の五女である高木晴子の句もおのずと納得されるよう。「こにかうして在るだけで」という素直な、自然な表現の仕方、晴子のおおらかな句風が響いている。

矢島渚男は、石田波郷「鶴」、加藤楸邨「寒雷」、森澄雄「杉」の各同人として活躍してきた当代有数の俳人である。この句は寺鐘・梵鐘の音にのどかさを感得して、まずは仏教句として受けとめておきたい。

なお、長閑・のどかのほかにも、こうした春のおだやかな時候を表す季語がある。春暖・暖か(あたたか)は、春の日の暑くもなく寒くもない心地のよい暖かさのさまである。麗日・麗か(れいじつ・れいか)は、春の日がうるわしく、やわらかく光り輝いているさまである。永日・日永(えいじつ・ひなが)は、短かった冬の日がめつきり長く感じられるさまで、別の見方からすれば、遅日・遅き日(ちじつ・ちきひ)ということである。

このように書いてきて改めて思うことは、おだやかな一日をのんびりとゆつくり(ゆつくり)過ごすことのありがたさである。無事平穏を心から感謝し、心身をやすらかにくつろがせて、満ち足りた時間を過ごすことが大切なのである。春の一日、暖かいのどかな気分につけて、とらわれない・こだわらない・かたよらない、空無執着・中道実践の生活を目標にしたい (大正大学名誉教授)

十二月・一月の行事報告

絵馬回向 十二月十四日(土)



年末恒例の絵馬の魂入れ

修正会 一月二日(水)



本堂に太鼓の音が鳴り響きました

春彼岸法要

三月二十日(木・祝)

彼岸寄席 春彼岸法要

午後二時〜地下二階祖師堂

午後二時〜地下二階祖師堂

※祖師堂入口はご利用いただけませんのでご注意ください。
※場所や内容が変更になる場合がございます。

立川小談志 師匠



プロフィール

昭和五十一年九月八日生まれ。
岐阜県出身、本名は寺田政春。
平成十一年五月 立川談志に入門。
前座名「談吉」。
平成十九年七月 二ツ目昇進、
「泉水亭錦魚」を襲名。
平成二十二年十一月 談志死去のため、
平成二十四年四月 龍志門下へ。
平成二十七年十月 真打に昇進、
二代目「立川小談志」を襲名。

塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

●お申込み方法

同封はがきにご記入の上、3月8日(土)必着でお申込みください。

●お支払い方法

同封の払込取扱票で郵便局にてお支払いいただくか、当院受付までお持ちください。銀行・コンビニでのお支払いはできません。

また、払込取扱票に記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額ではございませんので、ご注意ください。

●お塔婆のお渡し

春彼岸会法要終了後にお渡しいたします。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。

ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせください。



郡上八幡ふるさと展

3月19日・20日 10:00~17:00
(最終日16:00終了) 観音堂

特産品が目白押しの郡上八幡の物産展が今年も梅窓院にやってきます!この機会にぜひお求めください。

お檀家様へお願い

- ・お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用ください。
- ・3月17日~23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
- ・会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺ください。

春彼岸会によせて

「寒いねと話しかければ寒いねと答える人のいるあたたかさ」という俵万智さんの詩があります。が、いつも親しく身近な話をできる方を亡くすことは、人生で最も辛いことです。「大切な人を失って、どのように受けとめたらよいか」。私たちにとって、何よりも大きな悩みではないでしょうか。古来より人々は、先立って往かれた大切な方と、新たな関係を築くことで、別れを受けとめ直してきました。

「お父さんお母さん、おはよう」今日はこんなことがあったよ」「おじいちゃん、おばあちゃんありがとう。これから見守っていてね。」

このように会話をしたり、また会っていると感じたり、手を合わせ、見守ってくれていると思えたり。別れてしまえば、そこで終わるのではなく、大切な方と新しい関係を築き直してきました。

それが、お仏壇の位牌やお墓です。お仏壇や位牌にお参りし、日常のことをお話すると、とても気持ち安らぎます。

そして、大切な方を最も身近に感じられる時期がお彼岸と言われています。お彼岸のお中日には、太陽が真西に沈みます。西の方角には、大切な方々がいらつしやる、阿弥陀様の西方極楽浄土があります。そのように、日本では昔から西に沈んでいく太陽のほうに、先立たれた方がおられるのではないかと。先立たれた方を思う季節として、お彼岸は大切にされてきました。

お彼岸には、ぜひ皆様も、お墓参りにお越しいただき、大切な方に会いに来てみてはいかがでしょうか。そして、お堂でのお彼岸法要にご参加し、在りし日の思い出を偲びながら、大切な方とお話するお気持ちで、共に「南無阿弥陀仏」のお念仏をお称えいただけましたら有難いと思います。

(法務部 西沢正彦) 合掌

令和7年 春のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列ください。

開始時間:正午〜 2階本堂

主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム



はなまつりと

お釈迦さまの教え



年中行事のクリスマスはキリスト教の創始者、イエス・キリストの誕生日ですが、お釈迦さまの誕生日をご存知でしょうか。四月八日で、そのお祝いが「はなまつり」です。梅窓院でもお釈迦さまの生まれた姿の誕生仏を花御堂に安置し、甘茶をかけています。今特集では、このはなまつりによせて、お釈迦さまの教えをお届けいたします。

をあげ、左手をさげている小さな子供姿の仏像がこの時のお釈迦さまで、これを誕生仏といいます。ご覧になられたことがあるでしょう。

さて、このお釈迦さまは今からおよそ二五〇〇年前のインドに生まれた実在の人物です。そして、この誕生時の話の真偽はともかく、仏教徒に語り継がれてきた大切な物語です。この物語が後世に伝わり続けているのは、世界三大宗教のひとつに数えられる仏教を開かれたお釈迦さまへのお弟子たちの敬意であり、こうした物語を通じて仏教の教え、特徴を少しでも多くの人に伝えたい、という願望があったからです。

生まれる前から現在までずっと続いているのです。

カースト制度は、上からバラモン(司祭者)、クシャトリア(王族)、バイシャ(庶民)、シュードラ(隷民)という四つの階層に分かれています。そして、生まれと血筋で決められたこの階層から変わることはいけません。

また、バラモン教には神様が沢山います。八百万の神がいる日本の神道に似ています。その神々の中で一番上にいるのが、梵天ぼんてんという神さまです。

この梵天に人々は色々な願いをしますが、お願いができるのが、司祭者であるバラモンだけなのです。これがカースト制度の特徴です。カースト制度にとらわれず平等に生老病死の苦しみを乗り越えるすべをお釈迦さまは広められ、それが今に伝わる仏教です。

人は生まれながらにして平等である。

これが、お釈迦さまの信念でした。「天上天下 唯我独尊」と聞くと何やらこの世では自分だけが偉いと聞こえがちですが、そうではなく、梵天やバラモンだけが偉いではなく、この世に生まれた人は

生まれてすぐに七歩あるいて

「**天上天下 唯我独尊**」とひと言

お釈迦さまはお母さんの右の脇の下から生まれると、すぐに七歩あるいて、右手を上にあげて天を指差し、左手を下に向けて地面を指差し、「天上天下 唯我独尊」と言いました。

これはお釈迦さまが生まれた時の様子を伝えた話ですが、ご存知の方も多いことでしょう。右手

お釈迦さまの時代の バラモン教とカースト制度

ではなぜ、こうした物語になったのでしょうか。今人は人権が大事にされる時代ですので、インドのカースト制度もこの後述べる四つのカーストのさらに下に位置する不可触民に対する差別行為は禁止されていますが、制度そのものはお釈迦さまが

みな平等で、尊い存在ですよ」と言う意味なのです。
また、右の脇腹から生まれたのは、インドでは右が清らかな側で、七歩あるいたのは六道輪廻ろくどうりんねを超えるという意味をもっています。お釈迦さまの誕生物語にはこうした仏教の考え方や教えがこめられている、ということなのです。

お釈迦さまが説かれた平等と一切皆苦と生老病死

では、お釈迦さまが説いた平等とはどんな平等でしょう。実は今の平等とはだいぶ違います。今の平等はどんな人でも努力次第で夢が叶えられるという機会均等や、色々な権利や義務を同じようにもっている、といった平等です。

しかし、お釈迦さまの説かれた平等は、人は誰でも同じ苦しみをもっている、一切皆苦という考え方で、す。とはいえ、これは気づきにくいことです。ですが、生まれてしまえば、必ず年をとり、病気になる、死を身近に感じるようになります。これに否応なしに気づかされるのが私たち人間なのです。

年をとれば、若さの持つ自由や夢が消えていきます。病気になるれば健康を奪われます。そして死はそれまで積み上げてきた自分の世界を一瞬にして奪い去っていきます。どれも苦しいことです。

では、この苦しみから逃れるには一体どうしたらいいのでしょうか。お釈迦さまは考えました。

原因となる生老病死を無くせばいい。ですが、古今東西、不老不死を求めた権力者がどれほどいたかわかりませんが、みな無理でした。最近の目覚ましい医療進歩で病気になるのを防いだり、延命できるかもしれませんが、死から逃れることはできません。私たちは生まれた瞬間から一秒ごとに年をとり、死に近づいている、これは間違いないことです。

こだわらない心で 穏やかに安心して満ちた日々を

では、どうしたらよいのでしょうか。
奪われても苦しめない自分を作ること、とお釈迦さまは気づかれました。

人は生きるために食べ物など、いつも何かを奪って生きています。ですから、一度手に入れたものを奪われるのは本能的に嫌なこと。そこで、手に入れた物を手放すことを理解し、それにこだわらない心を作ればいい、というのがお釈迦さまがたどり着いた結論でした。

振り返れば、自分ばかりを中心に考えて物事に執着していることの何と多いことか。この執着を無くせれば、穏やかに安寧な日々を過ごすことが

できます。とても難しいことですが、自分の健康や命にも固執することなく、自然の流れに身を任せて生きることができれば、それこそ、涅槃ねはん、さとりの世界になるのです。そのためには、心を奪われやすい物事から離れ、自分の内なるものに向かい合うことが必要です。ですので、出家して、同じ志の者が一緒に修行しよう、とお釈迦さまは仏教を広げていったのです。それには「梵天勧請ぼんてんかんじょう」という神々の一番上の梵天が、悟りを広めなさいと勧めたからとも言われています。

そしてこの仏教はやがて多くの弟子に広まり、中国から朝鮮半島を伝わって日本に入ってきました。そして法然上人の浄土宗へとつながってきました。

どうぞ今年のはなまつりでは誕生仏に甘茶をかけながら、お釈迦さまの心に、そして仏教の原点に想いを馳せてみてはいかがでしょう。



誕生仏を祀った花御堂

は野村証券とソフトバンクでの活躍を経てSBIグループを創業。現在傘下にSBI証券やSBI新生銀行を含む、SBIホールディングスの会長兼社長を務められています。お父様が信心深かったこともあり、天の存在を信じておられ、人にはそれぞれ果たすべき役割があるという に、お話を伺いました。

◆本日はご多用中、お時間をいただきありがとうございます。ありがとうございます。

(以下) いいえ、こちらこそ、住職からお越しいただいて恐縮しております。

◆それでは、梅窓院に 家のお墓とSBIホールディングスの社友墓を建てられた経緯についてお聞かせください。

私は兵庫県出身で、 家の墓は大阪の浄土宗寺院にあります。お墓参りがしやすいように梅窓院に父親の骨を分骨しました。また社員が都内でお墓を持つのは大変でしょうから社友墓も建立しました。なお高野山の奥之院には 家が1927年9月に建立した株式会社新聞舗の「物故店員之墓」があり、会社墓では最古と言われています。同じ場所に松下幸之助さんが松下電器の物故従業員慰霊塔を1938年に建立されています。

◆そういう経緯でしたか。 は日本を代表される経営者のお一人ですが、人生の指標になる著書も数多く出されていて、その中で「天」を大切にされているように思えますが。

そうですね、「天」というのは仏や神にもつながりますが、人智の及ばない力で、人のすべきことを導いてくれる存在だと思っています。

◆なるほど。天命でしょうか。

もう30年以上前のことですが、私たち夫婦は残念ながら子どもに恵まれませんでした。その時、天は自分の子どもを育てる代わりに、もっと多くの恵まれない子どもたちを助けなさいと言っているのだと気付かされました。

◆そうだったのですね。

そこで、私財で社会福祉法人を設立し、埼玉県の施設で虐待を受けた小中学生の子どもたち50人ほどを支援しています。また、SBIグループの公益財団法人を通じて全国の様々な施設への助成や児童虐待防止運動への参加、児童養護施設の職員向け研修などにも取り組んでいます。子どもたちが、社会に出た時に役立つよう英語研修や海外研修もしています。

◆なかなかできないことですね。

私も子どもたちも、それぞれが与えられた天命を果たしていくことが大切だと思いますし、私は生涯を貫いてやっていくつもりです。



泉ガーデンタワー内にある総合受付。



月に一度はお墓参りに来寺される 代表。

◆“ ”に与えられた役割、ということなのでしょう。仕事ではどんなことを大切にされているのでしょうか。

創業25周年に合わせて本も書きましたが、これまでの人生で最も大切だと思っているのが「縁と善の好循環」です。良縁を結ぶためには善い行いをしないとダメなと思っています。これまでの人生を振り返ると、困った時には必ず手を差し伸べてくれる人が現れました。まさに仏教の「善因善果・悪因悪果」の教えです。また、人間の知恵は「賢愚一如」で、天という絶対的な存在から見たら、人間の差は所詮微々たるものです。ですから、全ての事は天に委ね、従う「任天・任運」で、深く考えすぎず前向きに、常に世のため人のため正しい行いをしていくことにしています。すると自然と良い出会いが生まれます。まさに天の助けではないでしょうか。

◆なるほど、非常に興味深いお話を伺わせていただきました。本日はありがとうございました。



プロフィール

SBIホールディングス株式会社代表取締役会長兼社長
1951年兵庫県生まれ。1974年慶應義塾大学経済学部を卒業し同年に野村証券入社。その後ケンブリッジ大学留学やワッサー・スタイン・ペレラ・インターナショナル社(ロンドン)常務取締役、野村企業情報取締役等を経て、孫正義氏の招聘により1995年ソフトバンク常務取締役就任。現在は、SBIホールディングス株式会社代表取締役会長兼社長。また、公益財団法人SBI子ども希望財団理事、学校法人SBI大学理事長、社会福祉法人慈徳院理事長なども務める。著書に『縁と善の好循環』・『何のために働くのか』ほか多数。

青山散歩道

Trattoria Elfo

今回は、梅窓院から徒歩5分、「Trattoria Elfo」をご紹介します。昨年10月にオープンした本格イタリアンとソムリエ厳選ワインを楽しめるお店です。オーナー兼料理

人の進藤雅彦シェフは居酒屋・ラーメン店・洋食・焼肉店等を経験し、さまざまなジャンルを学ぶなか、イタリアンと出会いました。

イタリアンに惹かれた理由は、イタリアには日本と同じように四季があり、季節ごとに旬の食材を楽しむこと、そして料理の基本が食材そのものの味を大切にしているため、料理を作る楽しさをとても感じられるからだそうです。

お店の看板メニューは黒毛和牛の炭火焼きで、味付けは塩と胡椒のみ。前菜のバーニャカウダも野菜の本来の味を押し出し素材の魅力を最大限に引き出しています。

パスタの種類も豊富で、お店のイチオシは黒毛和牛を使ったミートソース。お肉がゴロっと入っている上に牛肉の旨味が詰まったソースがたっぷりかかっている、もちもちした生パスタとの相性が抜群です。また、セットの自家製のフォカッチャに付いてくる燻製クリームがこれまた絶品



です。

シェフを筆頭にスタッフの皆さんの対応も明るく丁寧で、素敵な笑顔が溢れていました。

進藤シェフの思いのこもった本格イタリアン、ぜひお楽しみください。

ランチとディナーではテーブルクロスを変え、照明も暗めにし、落ち着いた空間を演出しているので特別な日にも最適。



営業時間/
ランチ 11:30~15:00 (L.O.14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O.22:00)
定休日/日曜日
※最新情報は店舗まで直接お問い合わせください。
席数/座席24席
住所/東京都港区南青山3-2-18
光彩ビル1階
TEL/03-3405-7522



食材の味を活かしたシェフお勧めのランチコース。

食は命

第九十七回

雛祭り

食養研究家
武鈴子

三月三日・上巳節供はひな祭り。女の子の節供といわれていますが、本来は心身の穢れを洗い流す儀式の日でした。紙で人形を作り、息を吹きかけて流します。雛遊びは平安時代の女の子にも楽しまれていましたが、江戸時代、雛人形と共に飾られたのが「貝道具」と「犬笛」でした。貝道具はトランプの神経衰弱のようなゲームで、蛤の殻の内側に絵を描いた360個セットを二つの貝桶に納めたものです。蛤の片方の絵は他の蛤の殻とは合わないということで貞節の象徴とされ、嫁入り道具に用いられました。

犬笛は安産のお守りとされ、もともとは帳台の左右に置かれていた魔除けの獅子狛犬を真似て作られたものと考えられています。左右が雌雄、向かって右が雄で中にお守りを入れ、左が雌で化粧道具を入れたものだといわれています。

上巳節供の行事食といえば、まず桃花酒、これは古代中国で薬酒とされていたもので、室町時代までは一般的でしたが、江戸時代に神田鎌倉河岸の「豊島屋」が「白酒」を創案してからは、白酒が上巳の飲み物になりました。また赤飯も室町時代から江戸時代の上巳の節供にはつきものだったようです。

草餅は古代中国が発祥とされていますが、現代のようにヨモギを搗き混ぜるのではなく、ハハコグサを使っていました。これを正月の「菱はなびら」のように切ったものが草餅です。ヨモギは血液を浄化し、流れをよくします。

青山俳壇

選者「ウエップ俳句通信」編集長

大崎 紀夫

◎特選

○霜柱踏んでひそかに憂さ晴らし

◎入選

○居酒屋のメニュー少なき三が日

○蜜柑むき黄色く染まる指と爪

○雪うさぎ友と作って日が暮れる

○綿虫を見ては思うぞ雪近し

○冬の空飛行機雲が崩れゆく

○底冷えの部屋に灯ともし妻の留守

○昼寝する犬の背中に冬日差

○炬燵から出られなくなり夜が明ける

◎選者詠

○寒き日が暮れゆく鳩は枝にゐて

大崎 紀夫

◎ワンポイントアドバイス

高浜虚子は「ものをよく見て、案じることが大切」ということを述べています。上田五石は「眼前直覚」といって、ものを見た瞬間に句を詠むのだ、と述べていますが、やはりじつとものを見て、案じることが大切にしたいものです。案じているうちにイメージや言葉があれこれ浮かんでくるはずで、それを句にしているうちに、納得できる句ができるかもしれません。具体的には、一つの季語でいくつかわ句を作ってみることで。

投句募集

今回は「春の季語」でご自由にお詠みください。4月5日を締切、2025年6月発送の『お盆号』にて発表いたします。郵送・FAX・メールのいずれかの方法で、ご応募ください。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承ください。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 東京都港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係
FAX:03-3404-8436(広報部)
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡ください。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

令和7年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より「令和7年度前期仏教講座」を開講します。今年度前期も4名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加ください。
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日(木・祝)
寄席 午後1時～ 祖師堂
法要 午後2時～ 祖師堂

3月19日(水)～20日(木・祝)
郡上八幡ふるさと展 観音堂
※詳細は3面をご覧ください。

はなまつり

4月2日(水)～8日(火)
2階 本堂

今号の特集で取り上げたお釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花御堂がございます。皆様どうぞご参拝ください。

大施餓鬼会法要

5月17日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせいたします。

第89回 念仏と法話の会

6月5日(木)
講師 秋田県 九品寺住職
津村侑弥上人
※詳細は施餓鬼号同封チラシにてお知らせいたします。

開山忌法要

6月14日(土)
※詳細は施餓鬼号にてお知らせいたします。

発行 梅窓院
発行日 令和7年3月1日
発行人 中島 真成
編集 広報部
住所 〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電話 03-3404-8447
FAX 03-3404-8107
ホームページ <https://baisouin.or.jp/>
E-Mail jodo@baisouin.or.jp
題字 中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院からのお知らせ

一般社団法人「水月会」の福祉活動が梅窓院本堂にて行われました。ウクライナより避難された留学生に対し大学などの学費が会長である中島住職より贈呈されました。



梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

先日、職場のスタッフに「〇〇様、この間のお休みはずっとおさんどんで忙しかった」と話したら「??」伝わらないのです。「おさんどんで検索したら【飯炊き女】って出てきました!」……まあ似たようなものですがね。「ごはん以外にも自分以外の誰かのために色々ずっとやっているのよ。ちょっと教えてあげましたけれども使うことないでしょうね。というか、「おさんどん」「飯炊き女」は今使えない言葉のようですね。

以前、ご住職だったと思うのですがお着替えの際に若い人に「衣紋掛け持ってきて。」と話したら伝わらなかったので「ハンガー」と言い直したというのを思い出しました。この一件のあと、友人たちに「ねえおさんどんって知っている?」と聞きまわっておりますがさすが私の友人たちは知っているし今も使っているようで安心いたしました。

最近では死語となりつつある言葉ですが、良い言葉もたくさんあると思うので伝える範囲でこれからも普通に話していこうと思います。同じ経験された方がおられたらぜひお知らせください。
(墓苑事業部 森)

お檀家さんに伺いました

『毎年供養に来ています』

令和6年 秋彼岸会にて

旧本堂時代から毎年行事法要に来ています。参列の度に身が引き締まりますので、今後もぜひ参列したいと思っています。また、お墓参りの際は、ご先祖様に日常のことはお伝える気持ちで来ています。

時代的に仕方ありませんが、以前は行事法要後のお食事で他の檀家様と交流があり、知り合いも増えて気持ちが伝わり合い、良い時間だなと感じていました。

以前ほど交流はありませんが、お墓参りの際は周りの方と挨拶でき、お墓を大切にされている方が多く、すごく良い雰囲気だと感じています。